

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの大切さ ―戦争体験を通して―」（道徳）

高岡市立成美小学校 3・6 学年児童
平成 22 年 11 月 25 日実施

【いのちの先生】

白方 美智子先生

【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の話
 - (1) 東京大空襲の悲惨さ
 - (2) 家族の大切さ
 - (3) 我が子をかばいながらいのちを絶った母親
 - (4) 身近なところにあることがある
 - (5) いじめのない教室にする
- 2 質疑応答

「いのちの授業」の感想（6 学年児童）

私は白方先生から戦争の話聞かせていただいて、今日あらためて「いのち」は一つしかない、とても大切なものだと思います。生きているからこそ、いろいろなことができるのだと思います。これからも自分のいのちを大切に生きていきたいです。

「いのちの授業」の感想（6 学年児童）

今日、初めて戦争を体験した方の話を聞きました。今まで、「いのち」とはあたり前のように私の中であって、あたり前のように生きていたと思っていました。話を聞いて、「いのち」は私たちにとってかけがえのない大切なものと分かりました。戦争で死んでいった人たちは、もっと生きたかったんだろうと思いました。その人たちのためにも、私は「いのち」を大切にしたいと思いました。

「いのちの授業」の感想（6 学年児童）

私は白方先生が話し始められたときから、話の中に入りこんでしまいました。戦争についていろいろ勉強していたこともあって、話の内容が頭の中で映像になりました。それを想像していると、とてもつらかったらうなと思いました。そんな中を生きぬいた方だからこそ話せるのだと思いました。とてもよい学習になりました。

白方先生へ（3 学年児童）

私は白方先生のお話の中で、白方先生のお父さんが言った「なんで逃げてこられたことに感謝しないんだ」という言葉が一番心に残りました。この言葉を聞いたとき、いのちを本当に大切にしなければと思いました。いのちは一つしかないからです。

私は、白方先生のお話を聞いて、いのちを大切にすることはもちろん、友だちをいじめてしまう悪い心よりも、友だちを大切にしようというよい心を多くしなければいけないと思いました。今日はいろいろなお話を聞かせていただいて、ありがとうございました。

白方先生へ（3 学年児童）

突然の大空襲で、家族が死んでしまうことはとても悲しいことです。生きたかったのに、亡くなってしまった人がたくさんいたことがよく分かりました。

だから、私たちは、いのちを粗末にはしてはいけないと思いました。また、友だちともなかよくしていきたいと思いました。

白石先生のお話を聞いて、あらためて戦争のこわさが分かりました。これからはたくさんの人に戦争のこわさを伝えていってください。